令和３年度　**学校だより**　２月号

～ひとがすき　まちがすき　いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校　　電 話 ３３１－５１２３　　ＦＡＸ ３３１－５３４３

冬来たりなば 春遠からじ

副校長　佐々木 唯吉

２月３日（木）は節分、その翌日は立春です。まだまだ寒い日が続いていますが、「立春」と聞くと不思議と嬉しい気持ちになります。この時期は日中の時間が１日に１分ずつ長くなり、夜が１分ずつ短くなっていくそうです。そうやって少しずつ、確実に春になっていきます。

岩崎小学校のシンボルツリーである校庭のヒマラヤ杉は常緑樹であり、この寒空の中でも、真夏の炎天下の中でも、一年中ほとんど変わらない姿で岩崎小学校の子どもたちを見守ってくれています。一方、同じく校庭に生えているサクラの木は落葉樹です。ヒマラヤ杉とは対照的に、葉は全て落ち、子どもたちの目には枯れ木のように映っているのかもしれません。しかし、この時期のサクラの木に近づき、よく観察すると、枝先にはたくさんの木の芽が付いていることに気づきます。じっと寒さに耐え、一見すると何も変わらないように見えているサクラの木も、地中にしっかりと張った根から水分や養分を吸い上げ、それを幹から枝々にまんべんなく送り、花を咲かせたり、葉を芽吹かせたりするための大切な準備を怠ることなく、着々と進めています。落葉は、厳しい環境条件に耐えるために寒さに弱い葉を落として休眠に入る適応であり、春に立派な「新しい芽」を育てるために栄養を蓄えるための大事な準備なのです。

さて、子どもたちにとっても、この２月はちょうどそのような時期に当たると思います。次の学年に進学・進級する準備を着実に進める準備期間であり、さらなる成長につなげていく大事な時期です。新しい学年になってから、急に頑張ろうと思ってもできるようになるわけではありません。何よりもそれまでの蓄えが大切です。

子どもたちの成長の様子は、樹木と同様さまざまです。目に見える結果だけで判断せず、その過程でいかに頑張っていたかを具体的に称賛することが大切であると考えます。一見、今は「無駄だった」とか「失敗だった」と思うようなことでも、後になって振り返ってみると、貴重な経験であり、大きな財産となることはよくあります。周りの大人は子どもたちの成長を信じて、じっと待つこともときには、必要なのかもしれません。

今年度の小学校生活も残り２か月となりました。本校では次年度の諸計画等について調整を進めているところです。先の見通しがもちにくい昨今ではありますが、今年度の教育活動を真摯に見直し、保護者の皆様からいただいた学校評価をもとに、改めるべきところを改め、岩崎小学校の全ての児童が自分らしく、楽しく、希望をもって学校生活を送ることができるよう、教育活動を一つ一つ着実に行っていきたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。